

開 議

○浅野敏明委員長 おはようございます。

これから決算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

令和元年度長井市各会計決算に関する総括質疑

○浅野敏明委員長 それでは、昨日に引き続き決算総括質疑を続行いたします。

小関秀一委員の総括質疑

○浅野敏明委員長 順位4番、議席番号13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 おはようございます。

ようやく稲刈りも始まって、出来秋、収穫どうなるかということ心配ですが、いつも稲刈りになると雨など降って、圃場などがやっこくなるという心配もありますが、一般質問でも農林課長からあったように、コロナ等もあって、収穫物の価格などが非常に心配されるわけですけど、昨年度の決算について、通告しております件についてお尋ねをしながら進めてまいりたいと思います。

最初、一般質問で少し時間がなかったので、再度確認という意味でさせていただく部分もありますので、ご了解をいただきたいと思います。

大きな1番目、コロナ禍における長井市東京事務所の実態について、再度お伺いをしたいと思います。

今までの説明ですと、ふるさと長井会の事務局も担当しておるといふうなことであります。平成30年から約400人の会員を有するふるさと長井会の地元長井市の応援に対する力というのは非常に大きいものがあるなというふうに思いますけれども、会費をなくして、市の補助という形で運営をしてこられた、その経過と、特に今年に入っているいろいろな発信をしながら、会員が倍増というか、1,000人を超えるような実態があるというふうに伺いましたので、その辺のことも含めて報告をいただきたいと思います。総合政策課長からお願いします。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

まず、コロナ禍での長井市東京事務所の状況でございますが、現在も平常どおり開所して、職員も変わりなく勤務してございます。3月頃から大田区におきまして感染者数が増加し、職員の通勤時の感染リスク等も心配されましたが、区内の近くから通う職員のみで、通勤ルートに混雑はないため、十分に注意した上で出勤し、業務に当たっております。

ご質問いただいたふるさと長井会の事務局機能でございますが、長井市東京事務所はふるさと長井会の理事会、各部会の活動場所として利用されてるほか、会員への情報発信なども行っております。昨年度も年10回程度、ふるさと長井会関係の会議、打合せを長井市東京事務所にて実施してございます。

また、関連して、昨年11月、関東致芳会が主催し、蒲田駅前及び商店街で獅子舞いをした際には、長井市東京事務所が大田区やその管轄の警察などの関係機関との調整をし、その円滑な事務の実施を行ったところでございます。

また、本年度のふるさと長井会の運営につき

ましては、参集しての会議や業務、事業を行うことが困難な状況にある中で、今年度の事業方針について、役員を中心に、当然、感染の対策をしながら、長井市東京事務所での対面の打合せを行ったり、それ以外にもオンライン会議を行うなどの拠点として活用してございます。

委員のほうからございましたとおり、令和2年3月末時点で487人でしたふるさと長井会の会員でございますが、2回実施いたしました帰省自粛者応援事業において入会を促したこともあり、今現在1,200人ほどになっております。重複の方も若干いるものですから、今、整理しております。約1,200人ほどでございます。

この事業によって新たに700人ほどの新規会員が増えたわけですが、ふるさとである長井を応援したくても、どうやって応援できるかわからなかった方が多数いらっしゃるようで、この応援事業において、ふるさと長井会を知って、ぜひ入会し、長井を応援したいというメッセージも多数いただいておりますので、ふるさと長井会にとっても、長井市にとっても、非常によかったと感じているところでございます。

新規会員が増えた5月以降、基本的に新規会員にはメールアドレス、全て登録いただいておりますので、ダイレクトメールの送付とか、あと、ふるさと長井会会員が出演するおらんだラジオの番組紹介や6月から8月に行ったふるなびのクラウドファンディングの周知、ふるさと納税の一環でございますが、それなどについても長井市東京事務所を活用し、情報発信しております。

あと、先ほど会費のお話ございましたが、会費は無料でございますが、会員の方はほとんどボランティアでというか、要するに対価なく、長井市のために応援してる事業に各種参加していただいたり、特にふるさと納税なんか積極的に知人・友人に勧めていただいて、やっておりますので、特に会費が無料だから、長

井市で全部活動経費まで応援するというものではございませんので、そこはご承知おき願いたいと思います。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 実態は了解しました。今年コロナ禍のいろんな事業を通して会員が約倍増されたというふうなことは、会費云々よりは長井市を応援してくださる方が、恐らく年齢にもいろいろ、若い人も入っていただいたのかなと私は今回想像するわけですが、力強い応援団がもっともっと増えるように期待をしたいと思います。

そういう長井市東京事務所の活動について、発足当時、これは顧問等アドバイザーの設置の規制の中で、長井市東京事務所の果たすべき役割がいろいろ、8つほどあったというふうに理解をしております。特に私が注目しておったのは本市の産業の振興とか都市間の交流の促進等々あるわけですが、今は人口減で、関係人口の増加等に寄与してもらおう拠点として長井市東京事務所が果たすべき役割っていうのは非常に大きいなというふうに思いますけども、これは3番、4番にも関わってくるわけですが、現在、そうした長井市東京事務所の課題をどう捉えられておるのか、2番目の質問ですけども、お尋ねをします。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

まず、これまでの市議会でもお答えしております内容と重複する部分がありますことをご承知願いたいと存じます。

平成26年から開設しております長井市東京事務所は、ふるさと長井会の活動拠点とかふるさと納税の周知、大田区や首都圏の各団体との連携強化、首都圏での観光案内とか移住交流とかの機能の活用推進などを主な目的としてございます。

一例を挙げますと、これまでやってきた活動

ですが、やはり長井市東京事務所がなければできなかつたもの、例えば大田区の梅屋敷商店街や蒲田駅前などで、修学旅行の際にキャリア教育の一環として行ってる北中のあやめんごは平成22年から、南中のだがしや楽校は平成28年度から継続的に行っております。

また、防災協定については、平成28年4月に大田区と、平成29年12月には東村山市との間で締結をいたしました。

また、さらには、長井市議会と大田区議会の議員交流の橋渡しや農業委員会の大田区訪問、あと、市内事業所の都内での販路拡大や池上本門寺での雪灯り回廊まつりや朝市などの支援、特に長井市と大田区が連携し、地域間の連携を進めていった実績は当然あると思います。

加えて、平成28年に本市出身者や長井市を応援してくださる皆様がふるさと長井会を結成されたわけですが、その活動拠点として広く活用されたのは今まで説明してきたとおりでございます。

しかしながら、先ほど委員からございましたように、本市でも重要な課題となっております関係人口の創出については、長井市東京事務所が必要不可欠な首都圏での拠点であるというふうに認識がございます。今後は、これまで述べました活動などを継続しつつ、一步踏み込んで、定期的なつながりをつくり出す拠点としての機能を強化することが必要だと思っております。これについては当然、経費もかかるものでございまして、各先進的な事例も参考にしたいものですから、今年度、総務省のモデル事業の関係人口創出・拡大事業の採択を受けましたので、これを活用して、長井市東京事務所の関係人口創出拡大の様々な可能性を検討していきたいというふうに考えてございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 地場産品とか、いわゆる産業振興に大いに期待をしておるわけですが、

世界的なっていうか、日本の経済の状況等も含めて考えますとなかなか難しい部分もありますけども、具体的には物販やらPR活動というふうなことで今、報告があったような、長井市東京事務所の業務をなされてきたんだべなというふうに思いますけれども、毎年の長井市東京事務所の主要な施策の成果報告書を見せていただくと、ほとんどイベント等については大きく変わらない。昨日、今泉委員からの質問にあったような、いわゆる細かい物販等の部分については、置賜地域地場産業振興センターの領域だというふうなことでほとんど回答がなかったわけでありまして、報告書にあるいろいろなイベントなり、販売戦略の業務なりについては、これは決算でありますので、昨年度までの報告書についてはほとんど変わってないんでないかというふうに私は見受けられました。それが段階を経て、経験を経て、人のつながりを持って、拡大を少しずつしてくんだなというふうには期待をするわけですが、毎年同じことを繰り返さってるんでないかなという印象を受けるわけですが、その辺、総合政策課長はどういうふうに総括をしておられますか。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

今ご質問あった点でございまして、成果報告書に書いているイベント等につきましては、特に経費の面とか人的な面から、長井市単独でやはりイベントをするというのは非常に難しいところがあると思います。大田区でやってるイベントを中心に参加せざるを得ない状況がございまして、そこで、長井市の東京事務所ではPRをしたり、あと、地場産センターの東京事務所では販売をしたりしてるわけですが、そういうところを有効に活用しながらやっていくことしか、経費面からも人的な面からも今のところありませんので、どうしても固定化するところはありますが、ただ、大田区のほうでも例

えば新しい催しが出る場合にはブラッシュアップ等行って、こういった催しに出たほうが効果的だというものもあれば、それは毎年検討しながら参加しますので、単にこれしか出ないとかこれしかPRしないとかっていうものではありませんので、そこはご理解いただきたいと思えます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 同じく、今までの長井市東京事務所の交流人口の拡大の実績ということで、なかなか数字として難しい部分もあるかというふうに思いますけれども、今、報告のあった事務所の機能は、私ら地元としては大きく期待する部分で、交流なりとか、さらに言えば、移住まで結びつけばもう最高なわけですけども、かつては介護施設等々の期待もしながら進めてきたというふうなこともありますけども、具体的な交流人口の実績について、報告があればお願いをいたします。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 長井市東京事務所では、本市の観光ガイドブックや移住定住につなげるような冊子の設置はもちろん、先ほど申しあげました各種の催しにおいても、広報、PR活動を積極的に行っております。市の東京事務所の役割は、交流人口や関係人口などになる方の掘り起こしを行い、例えば観光であればやまがたアルカディア観光局、移住定住であれば市役所の担当課につなぐなどの機能を果たす役割と認識をしております。例えば観光ですと、長井市東京事務所の職員が観光客を長井市に連れてくるのではなくて、やまがたアルカディア観光局を紹介するという形を取っております。

一例を挙げますと、昨年、9月に開催されました、国際都市おおたフェスティバルとか、あと、10月に開催されたおおた商い(AKINA I)・観光展などのイベントにおいて観光PRを行ったところ、数名の方でしたが、長井市訪

間に興味を持たれた方おりましたので、その方についてはやまがたアルカディア観光局を紹介したところでございます。あと、また、昨年度は、市の東京事務所経由で2家族に移住の相談を受け、その2家族の方が館町にあります移住体験ハウスのほうを利用されました。そのうちの1件の方が実際、長井市に移住してございます。ということで、実績は結びついております。ただ、単純に何件上げれば成果があったかとかではなくて、やっぱりこういったものは地道にやっていくしかないものですから、そういったものがございました。

また、商工観光課で現在、山岳の観光分野で活躍いただいております地域おこし協力隊の方も、長井市東京事務所を介して紹介いただいて、今、活躍いただいておりますので、そういったこともご紹介させていただきます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 今後、業務の拡大なり、期待をしたいなというふうに思いますけども、今、報告の中でもありました、長井南中学校、長井北中学校の修学旅行時の体験、これは修学旅行前から地元の産業なり文化なりを学んだ上で、現地でPRなり物販をしながら体験をするというふうなことで、私も、立場上、1回行って、見せていただいたことありますけれども、これは、市で52万円ほどの予算をつけながら販売体験をしておるというふうなことでは歴史あるわけです。これについて、生徒の感想はどうなのかなというふうに私、思ったところです。修学旅行の中身については学校さんの判断とスケジュールの作り方といろいろあるわけですが、例えば知ってた人が応援の意味で駆けつけてくるのはうれしいんですけども、私の見た限りはもっともっと体験や苦勞をする時間が少ないんでないかなと思うし、子供さんからもそういう感想が少しあったんです。その辺をどういふふうに学校教育の現場で捉えておられるのか、

いいこともあるし、いろいろ変えていがんねえこともあるんだべなというように思うので、学校教育課長にお尋ねします。

○浅野敏明委員長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 お答えいたします。

まず、2人の生徒の感想をご紹介します。「健康にいい玉こんにゃく」というテーマで学習をした男子生徒の感想です。「僕は、だがしや楽校を通して、たくさん大切なことを知りました。長井の魅力を伝えるためには声をかけて会話する。それから説明する。これを続けていくたびに、長井のことを知ってもらえたと思い、うれしかったです。」

次に、当日、商店街で外国人の方に各ブースを英語で紹介する活動を行った女子生徒の感想です。「私は、英語班として、外国人の方々に各ブースを英語で紹介しました。初めはとても緊張していましたが、外国の方も私たちの英語を聞き取ろうとしてくださって、話していくうちに仲よくなることができました。先生や友達に助けてもらいながら会話ができて、とても楽しかったです。もっとたくさん外国の人と英語で話してみたくくなりました」という感想でした。

次に、それぞれのブースに当日、足を止めてくださった方の反応です。今度、長井のあやめ公園に行ってみようと思ったというふうに言ってくださった方がいました。それから、以前、長井市にお越しいただいたことがあったようで、懐かしくて、足を止めたなんていう方もいらっしやったということでした。また、挨拶や話し方がとても気持ちがいいということで、わざわざ教員のほうに声をかけてくださった方もいたということでした。また、英語で紹介したというのをご紹介しますけれども、その女子生徒の説明を聞いた後、それに感激した外国の方が1回、その場を離れた後、お土産を持ってまた帰ってきたなんてことも実はありました。この英語で紹介するというのも、1年生からの学習

の積み上げでこの日があるので、ちょっとずつ活動内容は年度ごと変わっているんですが、そういうふうな変化がある中での出来事でした。

それから、長井市のこの活動ですけれども、訪問先の大田区や梅屋敷商店街など、多くの方々の協力いただいているわけですが、向こうの区長さんや商店街の方からも、すばらしい活動だと実は言っていただいています。区のほうでは、自分たちの区でもこのような活動できないのだろうかというふうな話が盛り上がったこともあるというふうにもお聞きしています。

このように、生徒一人一人が自分の住む長井市のよさを、中学1年生、もっと言うと小学生のときからずっと学んでいるわけなんですけれども、これを伝えたいという思いを持って、各ブースで特産品を紹介したり、長井市のよさを説明したりするという活動を行っていますが、最初っからうまくいくわけでは決してなくて、当日も不安や緊張感を抱えながら、少しずつ品物を売れるようになったり、話しかけることができるようになったりと、そういうふうなことをこの一日の中でも経験してるようです。最初っからうまくいくのではなくて、いろんな苦労を重ねながら体験できるというこの体験は、生徒たちにとってはとっても大きな経験だなと、大きな価値があるなというふうに考えています。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 子供たちがいろいろな思いと体験とで思い出も深い修学旅行、そしてこういう授業も修学旅行の中で取り組んでるといのはなかなか珍しいケースだなというふうに思いますんで、今後とも少しいろいろな具体的な部分で試行錯誤して、子供たちの声を聞いていただきながら進めていただければなというふうに思いますし、長井市東京事務所のほうとも、直していがんねところとか工夫していがんねところとか、ぜひやり取りをしていただければなというふうにご願いを申し上げます。

最後の質問です。自治体の知名度を発信する方法として、昨日質問の回答にもありましたけども、フェイスブック等、発信方法がいろいろあるということでもありますけども、これまでの質問でも何回か私も、長井市東京事務所としては何にも発信してないんでねえかというふうなことを申し上げてきてまして、昨日は準備をようやくできるようになったというふうなことでありますけども、長井市東京事務所顧問の個人のフェイスブックのみではやっぱり誤解を招く部分もあります。やっぱり最低でも長井市東京事務所としてのホームページをつくって発信しなければ、これは拠点の今の時代のやり方としては全く不足してるなというふうに思います。総合政策課長から恐らくあるかもしれませんが、予算をどういうふうにつけて、立派なものをつくるかというふうなことも一つありますけど、まずはスタートしないと分かんねべというふうに私はずっと思い続けてきたので、その辺のことについて、総合政策課長にお尋ねします。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

昨日、今泉委員にご回答いたしましたが、やはりホームページというか、情報発信の重要性は十分認識しております。ただ、やっぱり行政でやる場合については、例えばセキュリティ上の問題とかしっかりしたものを当然つくらなきゃいけませんので、経費も当然かかります。今年度できました総務省の関係人口創出・拡大のモデル事業の中で今、準備進めておりまして、今年度末までをまず目標、ただ、できればなるべく早い時期にホームページをつくりたいというふうに考えてございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 総務省の補助もあるというふうにお聞きしましたけども、大体どのぐらいの予算を予定してますか。

○浅野敏明委員長 竹田利弘総合政策課長。

○竹田利弘総合政策課長 お答えいたします。

ホームページの作成については約50万円から70万円程度というふうに想定して、総務省のほうともそれについては協議をしております。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 ありがとうございます。

次に、コロナ禍でフラワー長井線の利用が非常に苦戦してるというのは、これはフラワー長井線だけでなく、いろんな経済団体が活動してる中では当然だというふうに思いますけども、決算時まで、いわゆる3月までのコロナ禍による影響について、地域づくり推進課長にお尋ねします。

○浅野敏明委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

フラワー長井線のコロナ禍におけます令和元年度の影響でございますが、今年3月分に影響が出ておりまして、前年同月比で乗車数が64%、あと、収入のほうは62%という状況でございます。影響については、沿線高校の休校のほか、一般乗車客、あとは観光のほうの減少によるものと考えております。

なお、3月についてはコロナウイルスの影響ございましたけども、令和元年度の山形鉄道の決算につきましては、最終的には400万円の黒字という状況でございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 こういうコロナ禍の中で大変経営努力なされてきたんだなと。

今ご紹介ありました、400万円の黒字を出されたというふうなことで、その中で、人件費の削減等、決算にも載っておるわけですけども、これについての内容はどのようなふうな削減をなされたのか。

○浅野敏明委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 これにつきましては山形鉄道株式会社の現在の組織体制による

ものでございまして、運輸部長の職務の部分が今、空席になっておりまして、現在、押切専務取締役が兼務してございます。専任の運輸部長が不在となっておりますので、その人件費分が671万5,000円マイナスとなっているところでございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 運輸部長を兼務されてるというふうなことについては今後、新任者を選出する予定があるのか、このままの状態が進むのか、組織体制のことについてお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 山形鉄道株式会社の体制によるものになるわけですけども、今現在、押切専務のほうに兼務できておりますが、本来であれば専任の部長を選任するのが今後の会社の運営を考えたときに望ましいと考えております。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 黒字で頑張っておられるフラワー長井線のこれからの経営努力に期待したいと思います。

次に、2番目の長井市置賜生涯学習プラザ運動公園の維持管理についてお尋ねをします。

運動公園の緑地維持管理業務委託料、約1,520万円、これについては天然芝を養生するときからずっと変わっていないように見受けられますけれども、天然芝の維持管理の予算については根拠があるのか、1年目、2年目についてはなかなか芽が出なかったりとか養生に手間暇がかかったってということで、たしか1年目は予算を補正して、増額をしたということではありますが、それがずっと恒常的になってるんじゃないかなと見受けられますので、これについては教育参事にお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 長井市置賜生涯学習プラザ

運動公園における緑地維持管理委託業務の内容につきましては、1つに、陸上競技場のインフィールドの芝生管理、もう一つは、多目的広場等の芝生維持管理、そして樹木管理の3つとなっております。委員からありましたように、平成27年度当初は950万4,000円ということで、当初予算、計上しておりましたが、全国商工会議所青年部のサッカー大会などの開催で万全の状態にする必要があります、芝の一部張り替えなど必要となり、補正予算で281万9,000円、決算額は1,232万3,000円となったところです。翌年におきましても、当初予算1,200万円程度を予定したわけですが、暖冬や小雨の影響など、芝生の育成状態が悪かったということもありまして、薬剤散布、散水等が必要になり、また326万4,000円の補正をさせていただきまして、決算額は1,546万8,000円となったところでございます。委員おっしゃるとおり、当初は芝や樹木が根づくまで手間がかかり、その分、補正で対応してきたという経過があります。

現在の予算状況について説明させていただきますと、基本的にはやっぱり前年度の実績を考慮しながらということになりますが、とにかく維持管理に要する、最低限必要な内容で予算編成しているところでございますが、天候に左右されることもありますし、あと、この数年で人件費、資材費、そして消費税の値上がりなどもありまして、令和元年度決算は1,520万円となったところでございます。

それで、恒常的にこの支出になるのかということではございますが、やはり広大な公園をいい状態で管理するためには専門的な知識と設備が必要となりますので、今後のにも業務委託で対応していく必要があると思います。ただ、委託料の金額については、どの程度の維持管理をするかということでの上下もございまして、今の段階では必要最小の経費で管理しているものと考えております。ということで、今後、少

しでも経費が下がるように努力してまいりたいと思いますが、ご理解とご協力賜りますようよろしくお願いいたします。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 必要最低限でということと、これは業務委託ということでありませうけれども、きれいに立派に天然芝が生えることというのは非常に微妙な仕事の中身があるかと思えます。入札等しておるといふことではないと思ふので、それについては仕事の中身についてやっぱりきちんと精査をしていただきたいと思ふます。最初、雨が少なかったり、ひでりが続いたりということと補正をしてきた経過もあるわけなので、最初から1,500万円ほどの予算でスタートしていくということについては、私は首かしげます。あと、一般質問でもしましたように、樹木といいながら周辺は草だらけで、これは別な形で公益社団法人長井・西置賜地域シルバー人材センターさんとかに委託して、管理しているということもありますけれども、見た目はまだまだ誇り得る施設にはなっていないと思ふますので、精査をお願いしたいと思ふます。

天然芝と人工芝の維持管理、これについては単純に、例えば減価償却で、人工芝の場合は何年が償却期間になるのか、私もきぱつと分かりませうけれども、1,500万円ほど毎年かかる部分と人工芝にした場合のいわゆる費用の比較等についてはどういふふうにご試算をされておられますか。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 まず、天然芝と人工芝ということとでございますが、生涯学習プラザ運動公園陸上競技場につきましては、当時、3種公認ということと取得するために、インフィールドを天然芝にする必要がございました。また、多目的広場についても、都市公園事業の新規事業採択ということとでございますと、公園の緑被面積が50%以上ということになっておりましたの

で、芝生を張る必要がございました。

仮に人工芝にした場合という委員のご質問でございますが、暗渠や側溝工事などをしますと、1億5,200万円ほど当初の工事費がかかると見込んでおります。人工芝にすれば、確かにその分の維持管理経費、あまりかからずに済みますし、天然芝に比べまして使用頻度も多くできるものと思ふますが、それでも使えばやはり劣化します。耐用年数でございましたが、7年から10年ぐらいと言われております。としますと、年間に割りますと1,500万円ほどになるのかなというところとでございますし、また、国庫補助を受けている事業でありますので、10年間は変更できないものと思ふ、今の状態を維持していくという予定でございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 今、教育参事からあったように、使用頻度から考えますと、例えば白鷹町、あと米沢市のサッカー場等が早くから遅くまで利用できるということは、恐らく天然芝から見て倍まではいかななくても、利用できる期間って物すごく長くなると思ふんです。あえて言えば、除雪さえすれば、冬でもできる。ということは、利用の手法を考えると、検討の余地はあるなと思ふます。年間1,500万円以上の維持管理の部分と比較して、ぜひ、これについても検討をお願いしたいもんだなと思ふます。

あと、走路の陥没発見の時期とその後の調査について、文教常任委員会のほうに経過について報告はもらったようでありますので詳しくは結構ですが、平成30年の秋に指摘がされたということと令和元年に調査をされたということとあります。これについて、今の検討状況をお聞きしたいわけですが、3メートル掘ると水が出てくるということの対策と、一般質問で2,250万円ほどの改良工事費がかかるというふうなことで、これについてはどの程度の面積なのか。あと、当然、地下水の処理の工事が必要

になるわけですから、排水等も含めて検討される余地はあると思うので、その辺の検討の状況についてお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 フィールドなど沈下の問題でございますが、対策については、委員おっしゃるとおり、今、検討中でございます。おっしゃいますとおり、沈下したところの約3メートル下で地下水が湧き出るといふことと、あと、過去に水路があったというようなあたりから原因などを突き止めようと努力してるわけですが、今、検討の最中です。

文教常任委員会協議会で説明しました工事内容につきましては、ちょっと詳しい面積は今、押さえてないんですが、基本的には沈下した部分についてラバーを剥がし、土を入れ、転圧し、かけ直して平らにするという工事を予定しているところで、次の公認を取りたいと考えているところなんです。その後、どのような工事をして、どのような沈下になるのかというのはまだ分かっておりませんので、検討をさせていただきたいと思っております。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 3種公認のグラウンドとしては非常に期待をして、天然芝も含めて整備してきた経過の中で、非常に残念だったなということでもあります。建設当初は地盤が軟らかいところだということも含めて議論はあったんですけども、結果、公認を受けられないような状態の地盤沈下があるということは、3種公認については工事をしないと受けられないということだと思います。当時は3種公認の条件としては天然芝、あと、いろいろな運動競技の施設、道具等の条件で今まで3種公認競技場を維持管理してこられたわけですが、この運動場の意義については、長井に誇れるということとか西置賜管内での陸上振興に大きく私は寄与してると思っております。

ただ、いろんな経過を考えますと、3種でない駄目なのかと思うところあるんです。正式な記録については4種でも、公認記録になるということもありますし、さっき言った芝の問題等も含めて、今は条件が変わって、人工芝でも3種を受けられるように条件が変わったということもあるとお聞きしておりますので、その辺の今後の位置づけについて、教育長にお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 お答え申し上げます。

まず、今回、委員のほうから西置賜の管内の中での位置づけということで、大切な視点で質問いただいたなと思っております。改めまして、西置賜地区にとって、この陸上競技場がどういう位置づけにあるのかということ、まず、お答えさせていただきたいというふうに思います。

置賜地区内には、当競技場のほかには米沢市営陸上競技場が3種、それから高島中学校のグラウンド、これが4種公認となっております。それぞれ公認の陸上競技場を保有しておりますが、今お話ししたように、西置賜地区では唯一の3種公認の競技場となっております。以前は西置賜地区には長井南中学校のグラウンド、それから小国町の総合スポーツ公園、ここが4種公認でありましたが、本市で取得したことによって、西置賜地区内の広域性、それから利便性に富んだ陸上競技場が整備されたということで、現在は公認廃止となっております。繰り返しますが、今、本当に唯一、ここだけが公認の陸上競技場になっているということです。

現在、本市の陸上競技場では、鈴木議員のときにもご返事申し上げましたが、昨年度実績で1万8,714名の方が利用していると。特に週末になりますと、西置賜地区内の中学校、それから近隣の市町を含めた高校陸上部、それからスポーツ少年団が利用しております、学校教育の活動、それから社会教育活動の場になってい

るといふことも多分存じ上げていらっしゃるということだといふふうに思います。特に西置賜地区の陸上競技の普及、育成、強化の拠点として、西置賜地区陸上協議選手権大会、それから西置賜地区中学校総合体育大会など、小中学生の全国大会までつながる大会の開催、これを行っているというところ、さらに、長井マラソン大会ですとか高等学校駅伝競走大会コースの発着点としても、多様な公認競技場の会場としての役割を担っているということです。また、インフィールドの天然芝も陸上だけでなく、サッカーの競技、それから前回ご紹介申し上げた商工会議所青年部の全国大会の会場としても幅広く利用されているということです。来年度、オリンピック・パラリンピックのキャンプ地ということでも期待もしているところでもあります。

さて、西置賜地区ということで申し上げますと、ご存じのように、白鷹中学校の紺野稔真君、四種競技で、全日本中学校陸上選手権で全国優勝を果たしました。このことも踏まえて、実は西置賜の中学校の体育連盟の会長にこの位置づけということで話を聞いてみました。結論から言うと、ぜひ西置賜のこの3種公認、残してもらいたいと強い思いがあったので、ご紹介させていただきたいと思います。特筆したいのは、西置賜の子供がこの拠点となる長井市の施設で、西置賜の指導者に育てられて、この競技場で次々と公認記録を立て、全国トップの座を勝ち取ったということだと、かつては、大会前は山形県あかねヶ丘陸上競技場とか米沢市のほうに行っていたんだけど、そうではないと。そういう意味で、地域型スポーツの象徴であるということ、生徒にとって、やっぱりこの競技場が拠点であるだけでなく、憧れの場であるということ、シンボルになっているのだということもありました。かつ、長井市の出身の方で、今、長距離で、駅伝のほうで関東の有名な駅伝部に入って、切磋琢磨している青年がおります

が、いずれ長井市に帰って、また、指導者になるということ、非常にそういう意味では意義あるものだなということ、ぜひ3種公認陸上競技場、子供にとっての憧れと誇りなので維持してもらいたいという思いであります。そのような思いも踏まえまして、やはり今後ともこの3種については維持していきたいと思っております。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 3種の意義について、教育長から、実際に走られている方、指導者の方の声も含めてお聞きしました。それはそれで十分に理解しているし、毎日のようにナイターの電気がついて、利用者がおられる様子は私も近くなので見ておるわけで、本当に3種で頑張っていて、結果を出すということ、あと、当地として3種で、4種でという検討は今後も私は必要だと思います。西置賜地区では4種もなくなってきたのでということではありますが、誇れるグラウンドの在り方と維持管理について検討を重ねていただいて、将来は指定管理を目指しながら、このグラウンドの利活用について共々に検討されると思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

それでは、次に、3番目の質問です。山形交響楽協会負担金29万2,000円についてお尋ねをします。

これについては、私もなかなかここまで決算で目届かなかったんですが、毎年、負担金というのはあったんだべなと思います。この経過と負担金の割合について、分かる範囲で、教育参事にお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 公益社団法人山形交響楽協会でございますが、1972年に東北初のプロオーケストラとして山形交響楽団が設立されまして、その運営母体として設立されたものでございます。そして、その活動といたしましては、山形

県及び東北地方における芸術文化の中核として、音楽を通じ、地域住民に喜びと潤いを与え、心豊かな生活、活力ある市民生活ということで行ってあって、その運営が大変なところでございますが、その負担金の算定につきましては、県の法令外負担金として負担しております。負担の割合につきましては、均等割20%、人口割40%、財政力割40%ということで、市は市長会において、町村は町村会において負担金額を算出され、支出してるところでございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 財政割も含めてあるということですので、長井市は高いほうなのか低いほうなのか、これ、聞きたいところですが、それはさておいても、今回、長井市民文化会館がリニューアルオープンがされ、指定管理については来春からということですが、利活用については非常に期待をするところでもあります。コロナ禍でありましたので、今年はいろんなイベント、コンサートなり、公演会なりも含めて中止が多かったわけですが、やまぎん県民ホールもようやくオープンした中でありましたが、なかなか公演ができなかったということでもあります。私も2回ほど、新しいやまぎん県民ホールに行って、山形交響楽団を聞いてきたわけですが、毎年、市町村が支援をしているこの山形交響楽協会の負担金の割に、長井市なり、ほかの市町村も含めてでありますけれども、山響との関わりはどうなってきたのかなと思います。これは次の3番目の質問にも関連するわけですが、学校教育とか、いろんなところで貢献をしていただいたり、市は単純な見返りを求めるものではないわけですが、各市町村との関わりについてどうだったのか、教育参事にお尋ねをします。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 各市町村との関わりと申しましても、個々市町村に対してということでは

なく、県全体として山形交響楽団とこの協会を支援しようというのがこの負担金の趣旨でございますので、個々に市町村にこの負担金があるからこのような見返りがあるというものではございません。それにしましても、山形交響楽団は市民生活の向上に大変寄与してるわけですし、活動の評価は高く、山形県の芸術文化会議賞、齋藤茂吉文化賞、あとは地域文化功労者文部科学大臣表彰など多数受けておまして、県民の喜び、潤い、そして誇りとなっているところでございますので、その辺で多大な貢献をいただいている、加えまして、委員からありましたように、市町村の子供たちにいろいろ演奏指導や、あと、生の演奏を聴かせるというような効果がありますので、負担金以上の役割を担っていただいているものだと思います。

あと、長井市に対しての貢献ということで考えますと、一例といたしましては、平成18年8月29日に行われました全国初の公演であります「ゼッキンゲンのトランペット吹き」でも、山形交響楽団が来市し、美しいオペラの歌声、繊細なオーケストラ演奏で観客を魅了いたしました。その観客の中に、今、長井市出身のオペラ歌手、全国で活躍なさってる梅津碧さんが大学生でおられまして、プロの道を志すきっかけとなったということもございます。というようなことで、山形交響楽団の素晴らしい音楽に触れることがきっかけとなって、いろいろな時間をかけて醸成するものもたくさんあるかと思えます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 長井市民文化会館のリニューアルについては、収容人数なり、招致する楽団とか公演者とか、様々な基準なり狙いがあるわけですが、長井市民文化会館の場合、今年12月に招致ということで調整中ということでありますけれども、南陽市さんなり、米沢市さんなり、村山市、庄内、いわゆる山形交響楽団の

場合だとユアタウンコンサートということで、毎年定期的に各地区を回っておるといふうなことでありますので、今後そういう予定が交渉できるのかどうかについて、教育参事にお尋ねします。

○浅野敏明委員長 小関浩幸教育参事。

○小関浩幸教育参事 今後の計画といたしましては、令和2年12月9日水曜日に、新しくなった長井市民文化会館ホールにおきましてコンサートを行う予定で現在調整させていただいています。

また、これまで長井市民文化会館で山形交響楽団さんのコンサート実績と申しますと13回ありますし、その他、小中学生を対象とした芸術鑑賞なども開いていただいているところでございます。

○浅野敏明委員長 13番、小関秀一委員。

○13番 小関秀一委員 ありがとうございます。

昨年度の決算ということで、非常に財政の硬直化が進んでる中で、市民の暮らしや楽しみや喜びを手助けをする行政の立場で、いろいろな経費削減を考えながら行政をつかさどっていただくことを期待して、総括質疑を終了します。

○浅野敏明委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

認第1号 令和元年度長井市歳入歳出決算認定についての質疑

○浅野敏明委員長 それでは、認第1号 令和元年度長井市歳入歳出決算認定についての一般会計の歳入から順次質疑を行います。

まず、認第1号の一般会計の歳入全部につい

て質疑を行います。事項別明細書の51ページから89ページまでであります。ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○浅野敏明委員長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

次に、認第1号の一般会計の歳出について質疑を行います。

まず、1款議会費、2款総務費について質疑を行います。91ページから135ページまでであります。ご質疑ございませんか。

1番、鈴木一則委員。

○1番 鈴木一則委員 市民課長にお伺いします。ページ数は123ページ、2款総務費の1項総務管理費、11目諸費の中の防犯灯整備事業についてお伺いをしたいと思います。

LEDの更新を電源立地地域対策交付金ですって行ってきたんですけども、平成30年度で実施数はほぼ終わりという資料があります。また、LEDの新設件数が決算書にありますけども、120か所ということで、更新は終了したのかどうかと、それから新設箇所の要望の分は全体的に幾らぐらいあるのか、お伺いをしたいと思います。

○浅野敏明委員長 金子 剛市民課長。

○金子 剛市民課長 令和元年度で一旦この防犯灯整備事業の新設については全部終了したものでございます。その後、修繕料等についても、順次予算をつけて、整備する予定になってございます。LEDの防犯灯の新設の要望は、それ以降もございます。令和元年度以降も、それぞれの要望に合わせて、現場を精査した上で設置する予定になってございます。

件数については、新年度についての資料をちょっと持ち合わせていないので、後ほどお知らせしたいと思います。

○浅野敏明委員長 1番、鈴木一則委員。

○1番 鈴木一則委員 ありがとうございます。